

Microsoft Power Platform ローコード開発 [活用] 入門

Chapter 12 「案件管理アプリ②」 参考資料

更新：2022 年 8 月 24 日

案件分析ダッシュボードを作成する（書籍本体 Chapter 12-1 参考資料）

完成するダッシュボードのイメージを以下に示します（画面 12-1）。



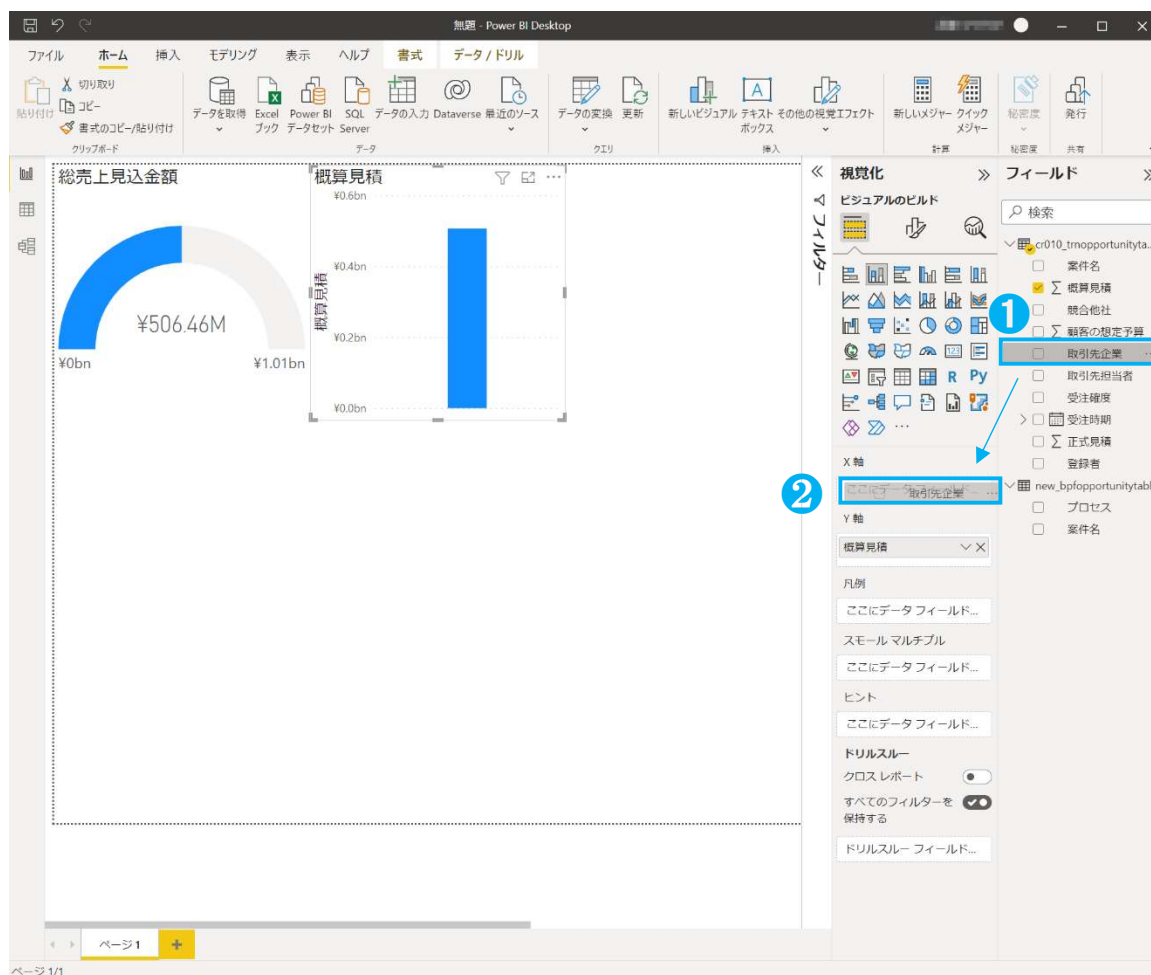
画面 12-1

ビジュアルの作成（2つ目）

[視覚化] ⇒ [ビジュアルのビルド] ⇒ [積み上げ縦棒グラフ] をクリックし、[ビジュアルのビルド] を次のとおりに設定します（画面 12-2）。

- ・[Y 軸] : [フィールド] - [概算見積]

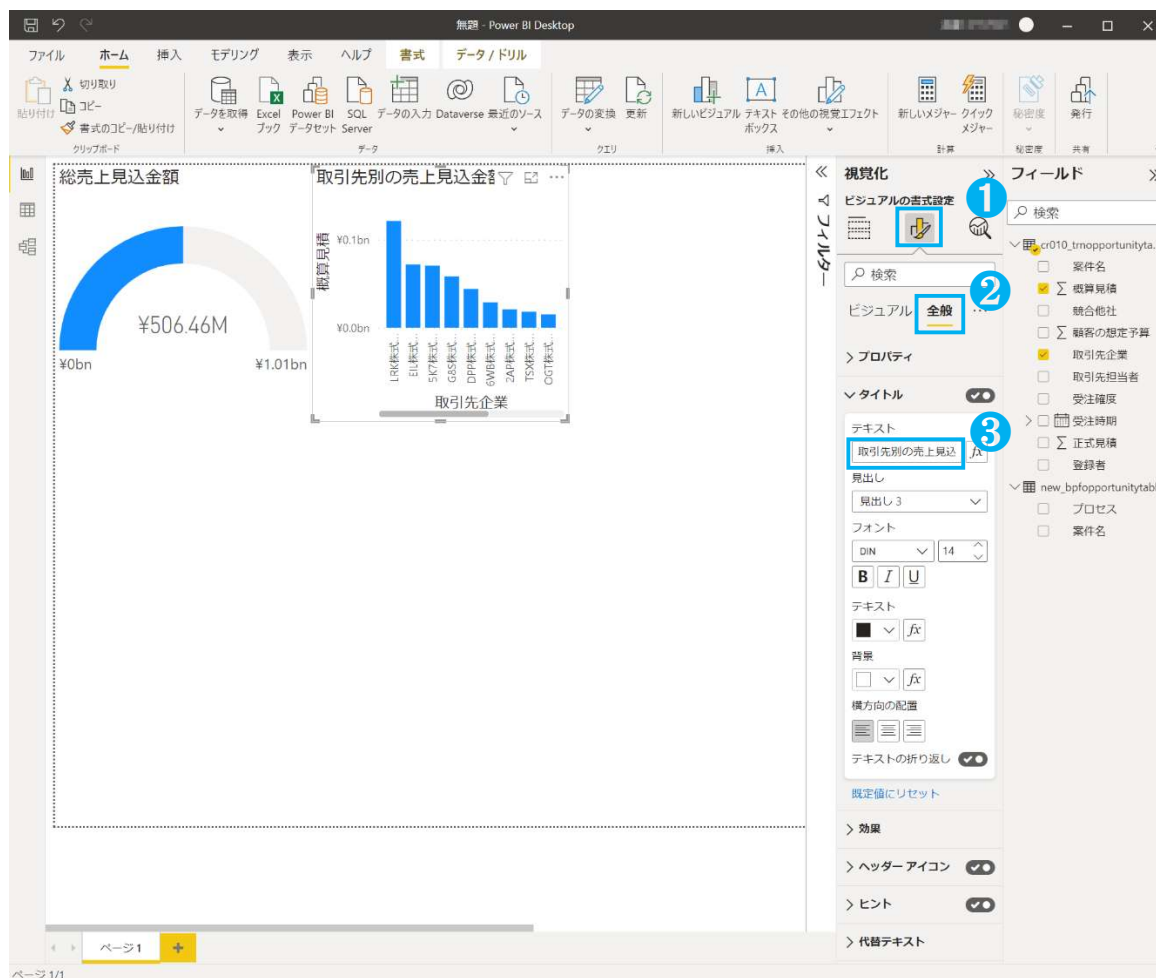
- ・[X 軸]：取引先企業]



画面 12-2

ビジュアルの書式設定をします。[ビジュアルの書式設定]を次のとおりに設定します（画面 12-3）。

- ・[全般] - [タイトル] - [テキスト]：[取引先別の売上見込金額]

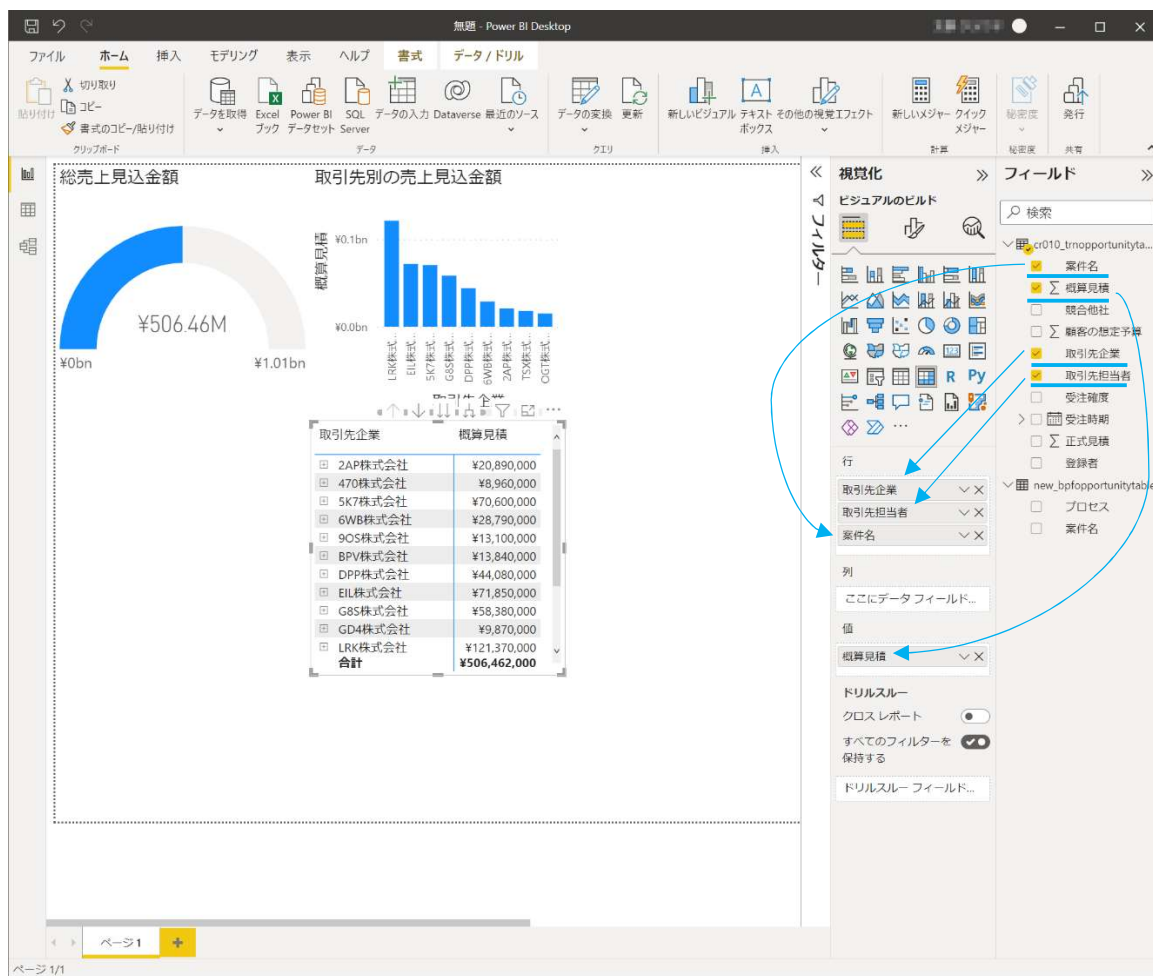


画面 12-3

ビジュアルの作成 (3つ目)

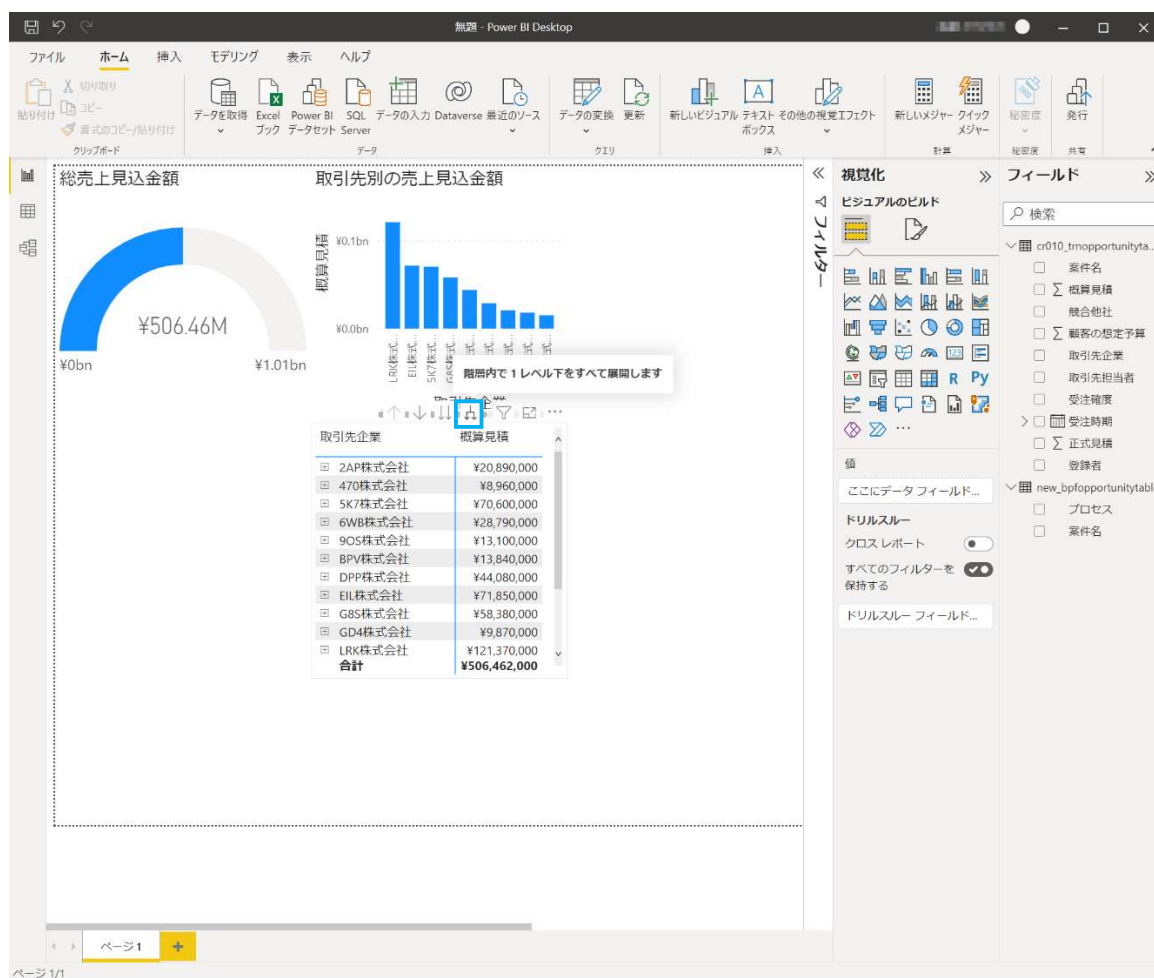
[視覚化] ⇒ [ビジュアルのビルド] ⇒ [マトリクス] をクリックし、[ビジュアルのビルド] を次のとおりに設定します (画面 12-4)。

- [行] : [取引先企業]、[取引先担当者]、[案件名]
- [値] : [概算見積]



画面 12-4

作成された[マトリクス]の上部に表示されている[すべて展開]をクリックすることで、取引先企業別、担当者別、案件別の累計金額の表示範囲を調整できます(画面 12-5)。



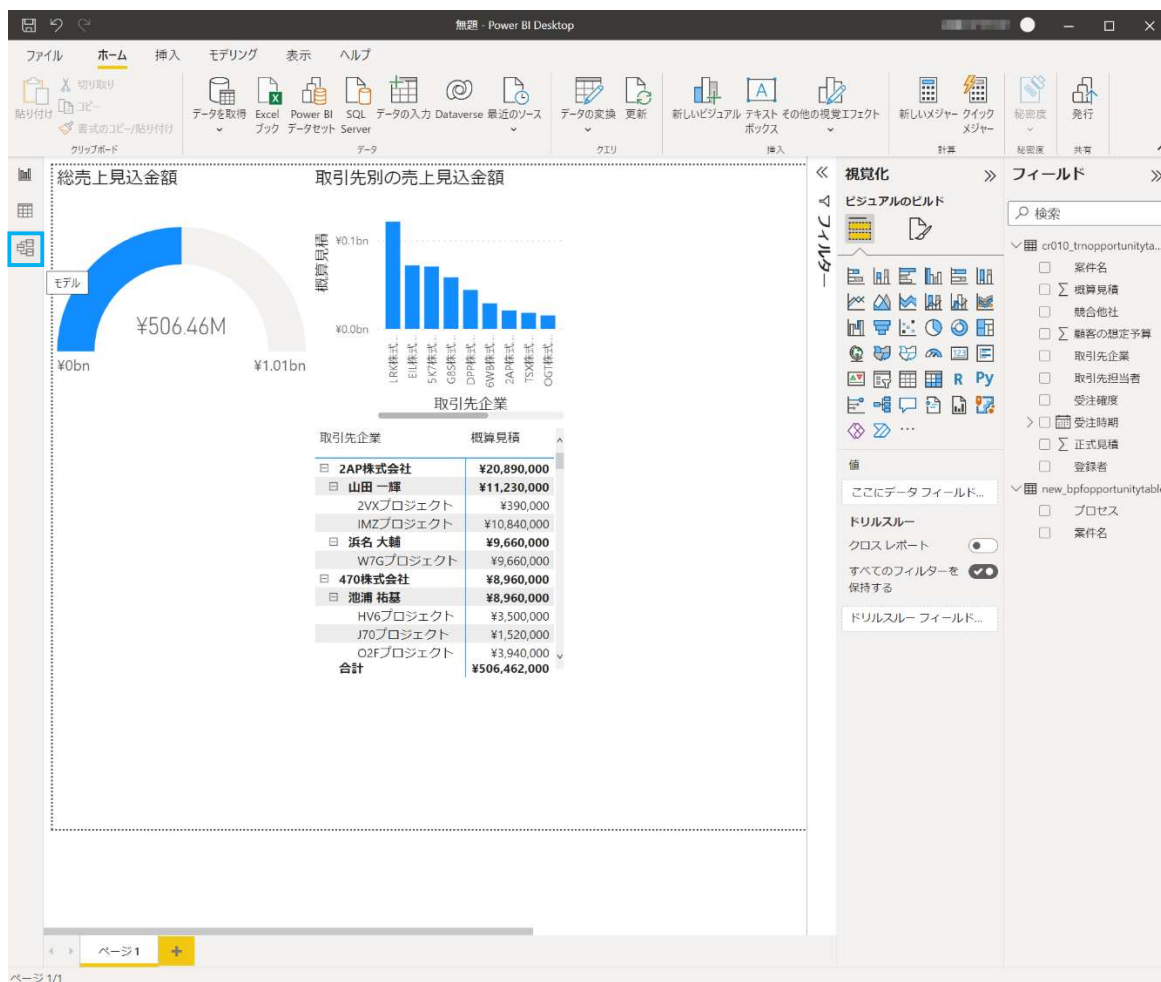
画面 12-5

ビジュアルの作成（4つ目）

4つ目のビジュアル作成では、[リレーションシップ] 機能を使用し、複数のテーブルを利用したビジュアルを作成します。

[リレーションシップ] 機能は、Power BI Desktop を使用して設定します。[リレーションシップ] 機能を活用すると、異なるデータソース (Excel、CSV、Dataverse、その他 Web サイトなど) でも Power BI で視覚化することができます。

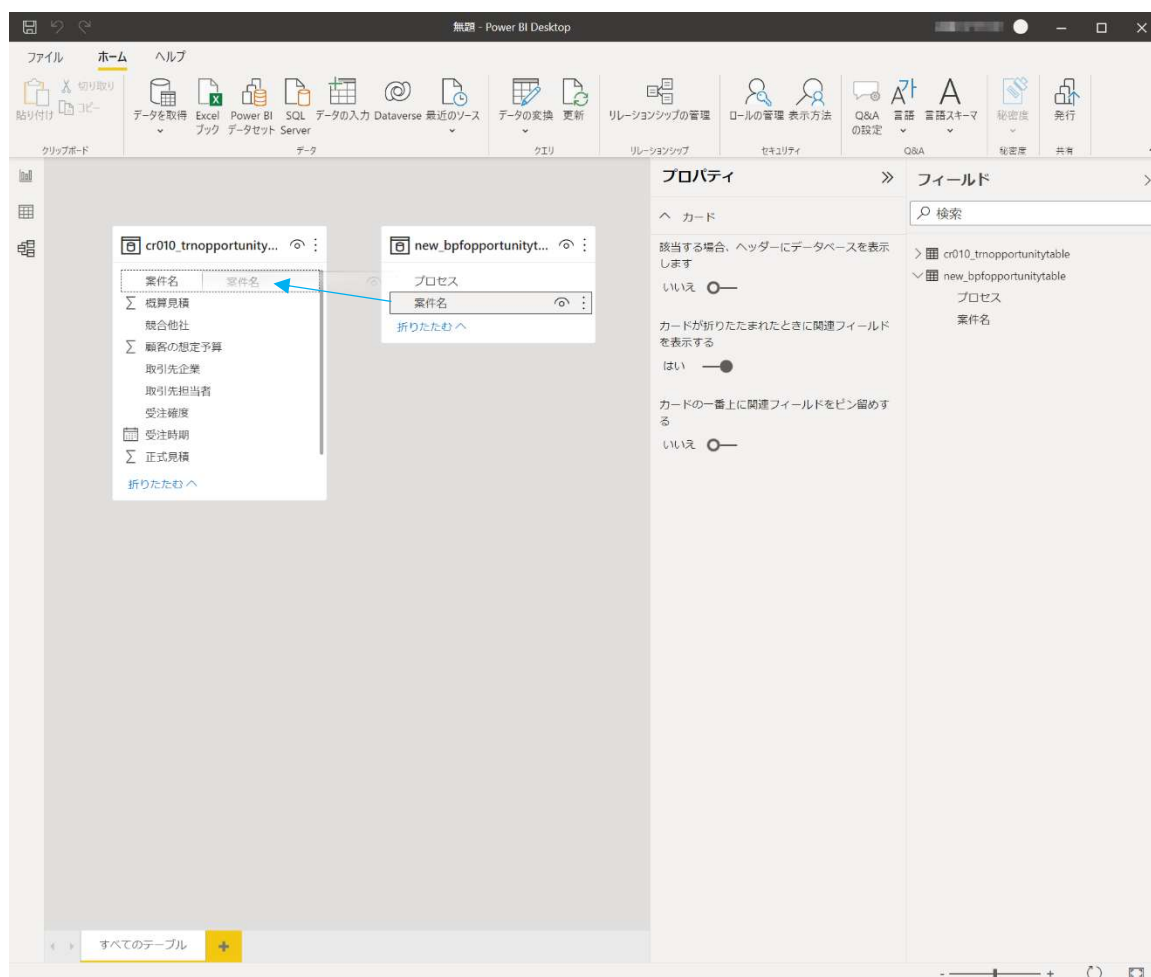
それでは「リレーションシップ」機能で複数テーブルの紐づけを設定します。左ペインの「モデル」をクリックします（画面 12-6）。



画面 12-6

「モデル」画面には、対象テーブルごとの列構造が表示されます。
 画面 12-7 は「案件テーブル(trnoppportunitytable)」と「案件プロセス管理テーブル(bpfoportunitytable)」の列構造が表示された画面です。
 「モデル」画面では、2つのテーブルの共通列をドラッグ&ドロップして「リレーションシップ」を設定します。

今回は「案件名」が共通列のため、「案件名」をドラッグ&ドロップします。



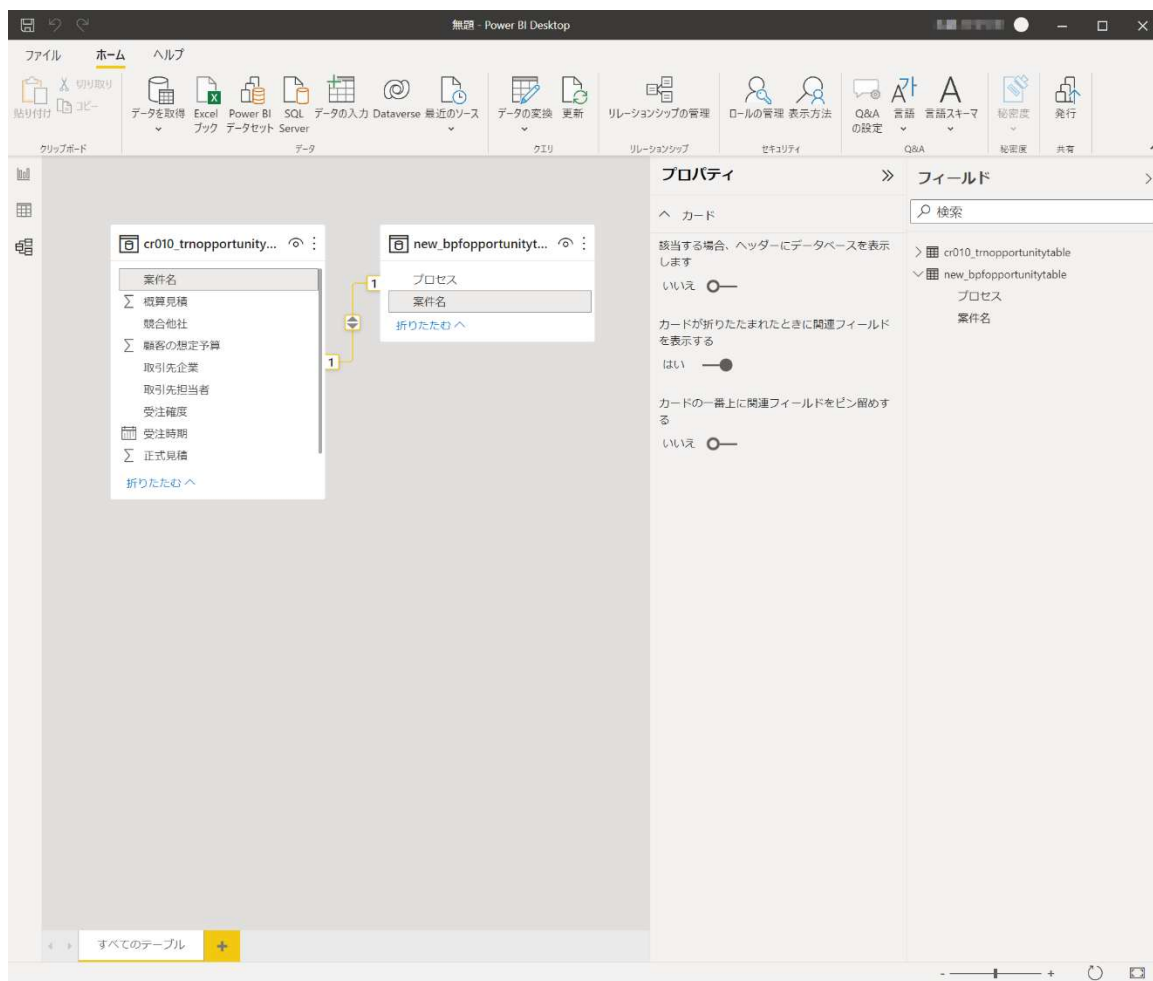
画面 12-7

「リレーションシップ」設定により、2つのテーブルは独立した状態から紐づいた状態になりました（画面 12-8）。

「リレーションシップ」はデータ特性をもとに、どちらのテーブルを親にするか、子にするのか、親子関係を考慮する必要があります。

親子関係は複数の種類（1対1、1対多、多対多）があり、「リレーション

シップ」を正確に理解するには時間を要します。今回は、異なるテーブルでも共通列で紐づけることにより、あたかも 1 つのテーブルのようにデータを管理できる機能が「リレーションシップ」だと概要だけ掴んでおきましょう。



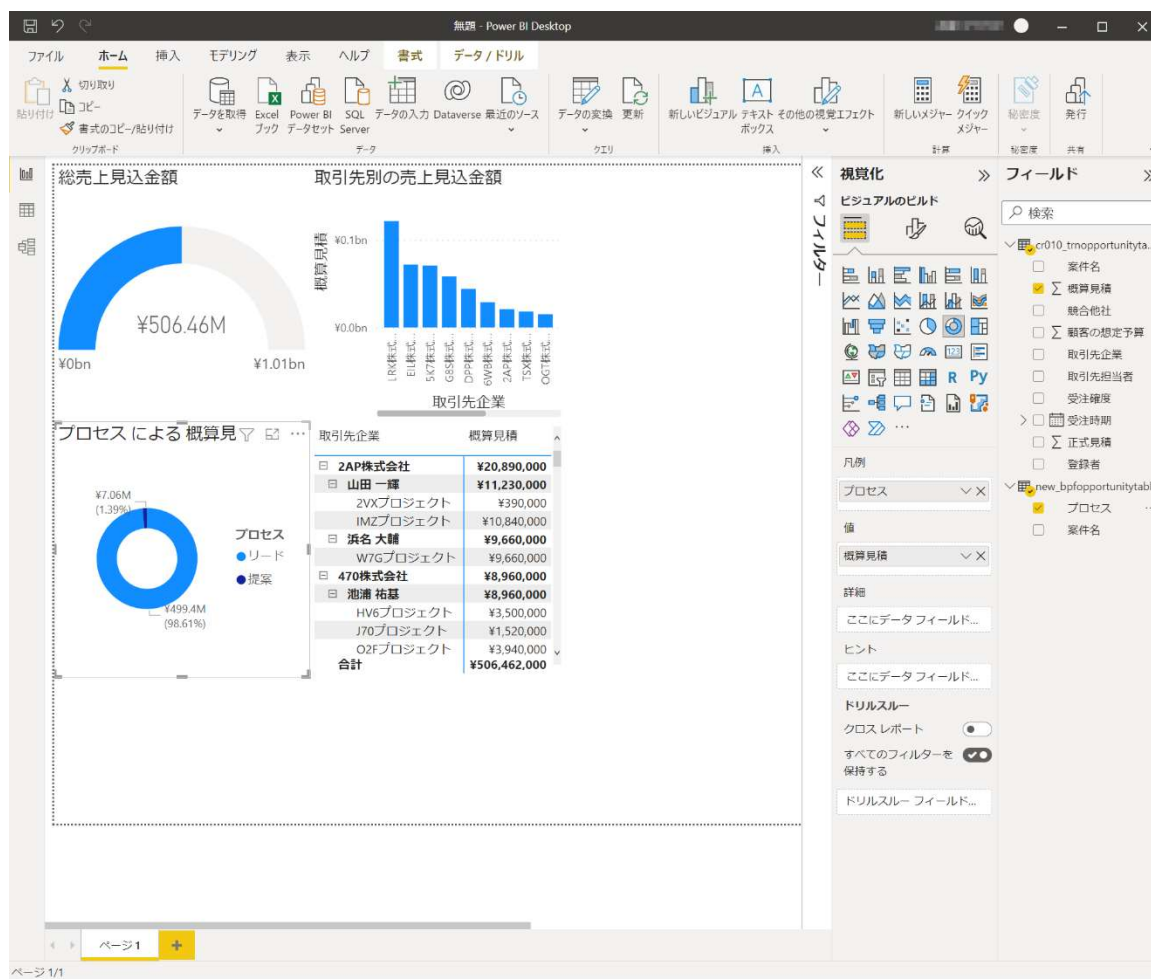
画面 12-8

左ペインの「レポート」をクリックし、4つ目のビジュアル作成に戻ります。

「視覚化」⇒「ビジュアルのビルド」⇒「ドーナツグラフ」をクリックし、

[ビジュアルのビルド] を次のとおりに設定します（画面 12-9）。

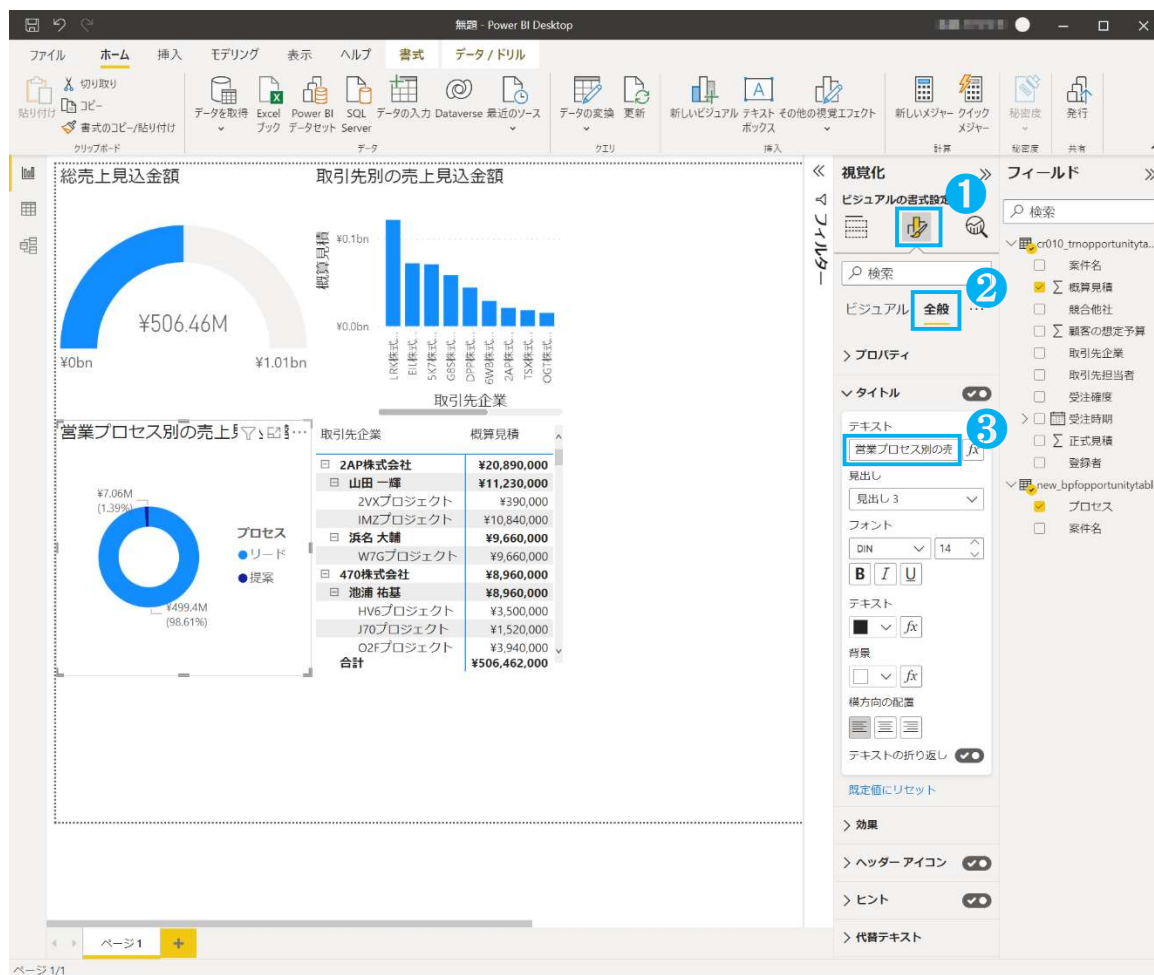
- [値] : [概算見積]
- [凡例] : [プロセス]



画面 12-9

ビジュアルの書式設定をします。[ビジュアルの書式設定] を次のとおりに設定します（画面 12-10）。

- [全般] - [タイトル] - [テキスト] : [営業プロセス別の売上見込金額]



画面 12-10

ビジュアルの作成 (5つ目)

5つ目のビジュアル作成では、視覚化されたデータを絞り込む「スライサー」を作成します。

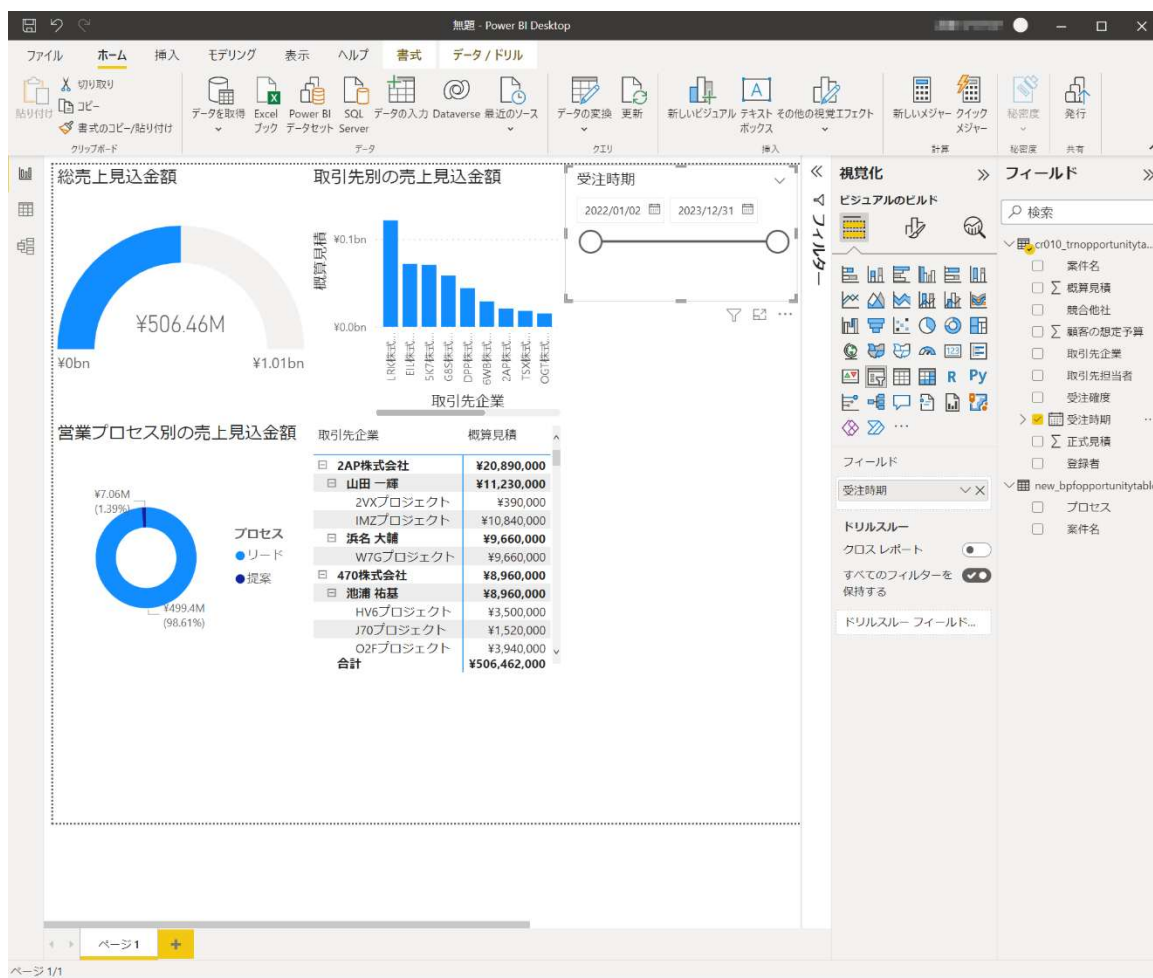
「スライサー」を活用すると、複数の絞り込み条件で視覚化することができます。

[視覚化] ⇒ [ビジュアルのビルド] ⇒ [スライサー] をクリックし、[ビ

ジュアルのビルド」を次のとおりに設定します。

・[フィールド]：[受注時期]

表示されたバーの両端、または日付入力 of のいずれかで受注時期を絞り込むことができます（画面 12-11）。



画面 12-11

ビジュアルの作成（6 つ目）

同様の手順で、[スライサー] を追加します。

[視覚化] ⇒ [ビジュアルのビルド] ⇒ [スライサー] をクリックし、[ビジュアルのビルド] を次のとおりに設定します。

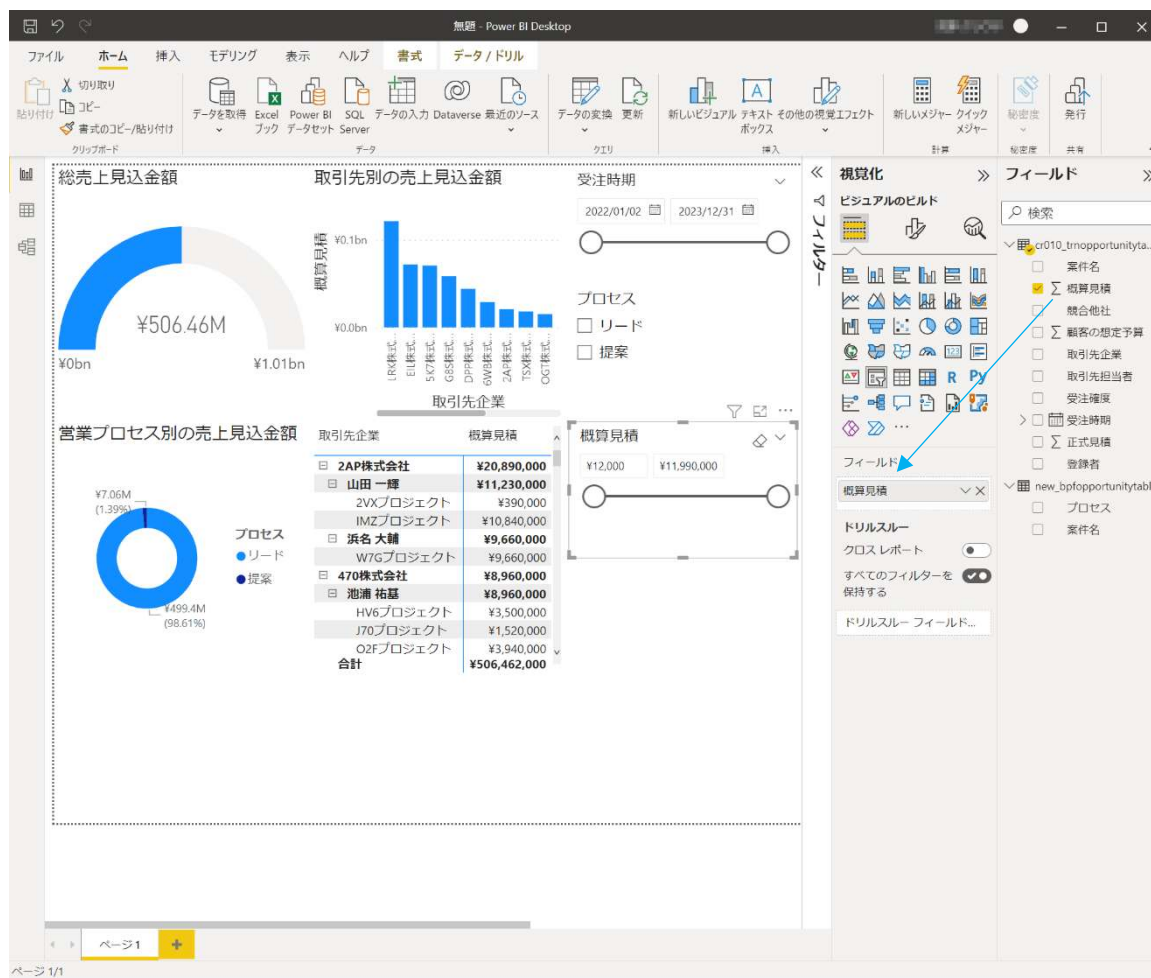
- [フィールド] : [プロセス]

ビジュアルの作成（7 つ目）

続いて、[スライサー] を追加します。

[視覚化] ⇒ [ビジュアルのビルド] ⇒ [スライサー] をクリックし、[ビジュアルのビルド] を次のとおりに設定します（[画面 12-12](#)）。

- [フィールド] : [概算見積]



画面 12-12

複数のスライサーを使用して、複数条件で視覚化を絞り込むことができます。例えば以下のように期間、金額、ステータスを任意の条件で絞り込むことができます。

・スライサーの利用例

[受注時期]：第三四半期

[プロセス]：見積

[概算見積]：1,000,000～2,000,000 円

最後に、作成したレポートを保存します。

[ファイル] ⇒ [名前を付けて保存] をクリックし、任意の名前でお手元の PC 内に Power BI レポートを保存します。